

# 子どもは遊びの名人



冬場の雪玉や松ぼっくりで、おいしいお料理のできあがり。

# 自然の再生をめざす



とよなか四季彩園の自然学習センターでは、猪名川流域や北摂地域に棲む水生生物や昆虫標本などを観ることができます。



服部ビオパーク 天気の良い日には、子どもたちでにぎわいます。



子どもは生まれながらにして遊びの名人。それを実感するのが「天竺のはらっぱ」(服部本町)です。石ころや葉っぱ、木の枝や実が自由な発想でいろんなものに变身。切り株がテーブルのレストランゴっこや、ロープを張った秘密基地。思い思いに遊ぶ子どもたちをゆったりと見守る大人たちも何だか楽しげです。

服部緑地の飛地を地域の人と一緒に活用しようと始まった「天竺のはらっぱ」であそぼう!」は、外遊びの機会が少なくなつた子どもたちへの呼びかけです。「集団行動が苦手な子どもも、ここで

は伸び伸びと遊びます。いろんな遊びを通して『できた!』という達成感が得られるので、自分に自信がもてるようになります」と話すのは運営スタッフの小塩真由子さん。

子どもたちの笑顔に引き寄せられるように、工作を教えてくれたり、絵本を読み聞かせたり、楽器を弾いたりなど、地域のいろんな大人が参加することも。無心に遊ぶ子どもたちの豊かな時間。ともに過ごす大人にとっても幸せなひとときです。

※天竺のはらっぱは遊び場の活動で使われている愛称です。

ふれあい緑地(服部西町・服部寿町ほか)は、大阪国際空港周辺での騒音等を緩和するために整備されました。緑地内には、各種のスポーツ施設や広々とした芝生、遊具を備えた公園があるほか、もともとこの地域にいた様々な野生生物が息意できる空間をつくるビオトープ活動も行われています。

市街地にありながら多くの生きものが暮らすことをめざす「とよなか四季彩園」(服部西町・利倉東)は、米づくりを体験できる田んぼや自然学習センター(9ページ参照)も併設された、水辺のあるビオトープ公園。また、近くには「服部ビオパーク」(服部西町)があり、大きな遊具や四季折々の花が咲く花壇のほか、たぐさんの生きものが棲める草地在が広がります。この2つを管理するNPO法人豊島北ビオトープクラブの柿本修一さんは、「昭和30年代、この辺りには田んぼやため池のあるのかな田園風景が広がっていました。初夏にはホタルが飛び交う水辺空間がありました。失われた自然を取り戻して、かつてのように子どもたちがバツヤやカマキリを追いかけたり走り回る原っぱをつくりたいと思つたのです。何もないところからつくり上げるビオトープは全国でも

珍しい取り組みです」と話します。自然学習センターでは、年間を通して生きものの観察会や自然工作教室、身近な自然を暮らしに取り入れる講座など、子どもから大人まで自然とともに暮らす体験学習の機会が提供されています。原っぱには、虫捕り網を片手にバツヤやチョウを追う子どもたちの姿が見られ、池のほとりでは飛来した野鳥の巣作りも観察されています。

※ビオトープ「生物」と「場所」を意味する言葉の合成語で、生物の生息空間のこと。



園内のせせらぎで生きものを探す子どもたち。